

関西石川県人会連合会 県人会だより

2025年度 第2号

令和8年1月



関西石川県人会連合会
第9代会長 東 孝司

会長年頭のご挨拶

関西石川県人会連合会会員の皆様、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年も皆さまの温かいご支援とご協力のおかげで、県人会として多くの活動を展開することができました。心より感謝申し上げます。

令和六年元旦に発生した能登半島地震は、能登地域に甚大な被害をもたらした。私たちも大きな衝撃を受けました。連合会では早速、義援金活動などを行い、石川県の皆さまのお力になるよう努めてまいりました。また、各県人会におかれても様々な活動に取り組んでおられます。

私も度々、現状を見る機会を得ましたが、復興は、緒についたばかりで、先は長いと感じ、輪島で生まれ育った者として、故郷の現状に、改めて胸が痛む思いです。

昨年からは、能登全体で復興の歩みが少しずつ形になり始めており、例えば、輪島朝市は、本格再開前にもかかわらず、「出張朝市」として県内外で活動されているほか、道路やライフラインの復旧、仮設住宅での生活改善、奥能登での祭りや文化イベント再開など、地域に活気を取り戻す努力が続けられています。

また、令和七年八月の大阪・関西万博「石川の日」では、石川県の祭りをご披露したほか、物産販売や能登直送の素材による日本料理の提供など、石川県の魅力を全国に発信する絶好の機会となり、県人会の皆様にもお力添えをいただきました。関西から石川の復興に向けた力を発信できたことは、大きな成果であったと考えております。

この経験を糧に、観光や産業の再生に向けて、私たちにできる情報発信や心の支援に、引き続き取り組んでいきたいと思っております。令和九年には、「第十六回全国石川県人会連合会大会」が開催される予定であります。五年に一度、全国の県人会の皆さんとともに、ふるさと石川の文化に直接触れることのできる大きな機会となります。私たちもその成功に向け、しっかりと準備を進めるとともに、全国の皆さんとの絆を一層深める機会にしたいと考えています。

今年が皆様にとって幸多き一年となることを心よりお祈り申し上げます。そして、この関西石川県人会連合会がふるさとを懐かしみ、新たな絆を育む場所として、さらに発展していけるよう、引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。

〇県人祭 in 大阪

令和七年十一月二十八日、大阪市のリーガロイヤルホテル大阪にて第五回県人祭 in 大阪が盛大に開催されました。今年も関西在住の石川県民にゆかりのある方々が集まり、過去最多となる約六百十名が参加し、年に一度のふるさとを想う貴重な機会となりました。参加者一同、北陸新幹線の早期大阪延伸を目指す決意を新たにしました。オープニングを彩った志賀天友太鼓の迫力ある太鼓の演奏で幕を開けた会場は、一気に熱気に包まれました。さらに、横綱に昇進した大の里関からビデオメッセージが届き、「大好きな石川を元気づけられるよう頑張っていく」と強い決意が語られ、会場からは大きな拍手が送られました。

その後、前田利宜十九代前田家当



主、馳浩石川県知事による挨拶に続き、乾杯の音頭を取った村山金沢市長も一句を披露し、会場は大いに盛り上がりました。馳知事からは、仮設住宅や水道料金の二か月無償化など、復興支援策の紹介があり、さらに東孝司連合会会長は、震災で被災した故郷・輪島を偲びながら、「少しずつ復興の道を歩んでいることに期待している」と語り、参加者の胸を打ちました。また、地元石川から県内各首長や関西の経済人も参加し、石川の未来に向けた強い結束を感じる会となりました。

参加者は、石川県産の食材を使った料理に舌鼓を打ち、会の中盤では、石川のご当地アイドルのほくりくアイドル部の選抜メンバーによるミニコンサートやお楽しみ抽選会を楽しみました。坂本克己大阪市長人会会長の閉会の挨拶、同会の辻口信良副会長の「石川愛」三唱で閉会となりました。

知事年頭のご挨拶 石川県知事 馳 浩



令和八年の年頭にあたり、県人会の皆様へ、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃よりふるさと石川を気にかけていただき、令和六年一月の能登半島地震の発災以来、多くの温かい励ましとご支援を賜っており、改めて厚く御礼申し上げます。

県では、令和七年を、「能登半島地震・奥能登豪雨からの「復興元年」と位置づけ、インフラの復旧や、被災者の方々の生活と生業の再建、さらには創造的復興に向けた取組に、全力を傾注してまいりました。

また、観光や応援消費の拡大に向け、情報発信にも注力し、関西圏での情報発信拠点「HOKURIKU+」や、首都圏アンテナショップ、中京圏の観光案内所を活用して、本県の魅力を広くPRしました。

さらに大阪・関西万博において、八月に「祭り」と「食文化」をテーマにしたイベント「石川の夜」を開催したほか、輪島塗の大型地球儀「夜の地球」Earth at night」が展示され、石川の伝統文化

や食の魅力を国内外に直接発信する機会にも恵まれました。

このように、復興の加速と石川県全体の成長に向けて、全力で取り組みだ一年であったと考えております。

北陸新幹線県内全線開業から今年の三月で二年を迎えます。今後も開業効果を持続・発展させ、被災地の復興にもつなげるべく、「今行ける能登」の情報発信に努めるほか、国の「復興応援割」が実施されるまでの間をつなぐ県独自の観光需要喚起策を、今年3月から実施することとしており、能登の本格的な観光の復興を見据え、誘客を図ってまいりたいと考えております。

県人会の皆様には、ぜひ、里帰りも兼ねてふるさと石川にお越しいただき、その魅力を心ゆくまでご堪能いただくとともに、能登まで足を運び、復興の歩みを応援していただきたいと思います。

最後に、県人会の皆様にとって、この一年が希望に満ちた輝かしい年となりますよう、また、県人会の益々のご発展を心より祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

連合会総会開催

関西石川県人会連合会の第六十二回総会が、令和七年六月二十一日、大阪市のホテルモントレグラスミア大阪で開催されました。当日は約百八十名が集まり、能登の復興に向けて思いをひとつにする力強い場となりました。役員改選では東孝司会長が再任され、さらに会則改正により新設された名誉顧問に、前田利宜前田家第十九代当主が就任。挨拶に立った前田氏の言葉に、会場は温かい拍手に包まれました。

続く懇親会では、奈良・薬師寺の大谷徹契執事長が「ステージチェンジと生き方」をテーマに講演。穏やかな語り口ながら心に響く内容で、参加者は熱心に耳を傾けていました。また、この日は能登半島地震で関西に避難している二十名の方々も招待され、会場全体が「支える」「つながる」という思いで満ちていました。

料理には金時草、加賀太きゅうり、能登牛サーロインなど、石川の恵みがふんだんに使われ、参加者は故郷の味を楽しみながら会話を弾ませました。食後には、前田利宜名誉顧問が代表取締役社長を務めるイノダコーヒの豆を使ったコーヒーマグがふるまわれ、香り高い一杯がさらに場を和ませました。

さらに、甲子園ペアチケットやキャリーケースなど豪華賞品が並ぶ抽選会では、当選番号が読み上げられるたびに歓声が上がリ、会場は大いに盛り上がりしました。締めくくりは、恒例となった辻口信良副会長による「石川愛」。力強い掛け声とともに会中は締めとなり、温かな余韻を残して閉会しました。



県人会総会など

○関西羽咋会総会

第十一回関西羽咋会総会・懇親会は、令和六年六月七日、大阪市の新ワシントンホテルプラザにて開催されました。総会は高畠副会長の司会で開会し、上田数義会長より「今後も会員数の増加に努めたい」との挨拶がありました。来賓挨拶では、羽咋市の岸博一市長、羽咋市議会の山本泰夫議長、東孝司連合会長より、それぞれ温かい励ましと期待の言葉を頂戴しました。

続いて、羽咋高校OBでもある浪速少年院法務教官・岡塚大道氏による「令和の少年院」と題した講演が行われました。岡塚氏が、これまで公の場で語られることの少なかった少年院での業務について説明され、参加者は熱心に耳を傾けていました。最後に記念撮影を行い、総会は閉会しました。

引き続き懇親会が開かれ、総会に続いて高畠副会長が司会を務め、和やかな雰囲気の中で始まりました。来賓挨拶では、羽咋市商工会の池田博明事務局長、ふるさと関東羽咋会の山川富雄会長、中京羽咋会の竹本豊彦会長、関西輪島の兵庫達夫会長らから、心温まるメッセージが寄せられました。その後、羽咋市からのホットニュースをパワーポイントで紹介し、続いて協賛者提供品の紹介、会員お楽しみ抽選会が行われ、会場は終始笑顔と歓声に包まれました。最後に参加者全員で羽咋市歌を斉唱し、ふるさとへの思いを新たにしながら閉会となりました。

○京都石川県人会総会



京都石川県人会総会は、令和七年六月八日、京都市の京都ガーデンパレスにて開催され、約百名が参加しました。総会は開会宣言、黙禱、会長挨拶に続き、議事が進行・承認され、新役員の紹介をもって総会は閉会しました。

総会終了後、懇親会では、司会を住田・九谷田常任幹事が務め、織部副会長による歓迎挨拶の後、辰野幹事長が来賓紹介しました。来賓祝辞では、土橋順一石川県文化観光スポーツ部次長兼観光戦略課長、法谷道哉京都府知事室長付理事らから祝辞がありました。乾杯後の懇談中に、新入会員の自己紹介、有志によるスピーチやふるさとの自慢話、来賓スピーチなどが続き、お楽しみの抽選会が始まりました。「石川愛」の合唱があり、辻口信良連合会副会長が主唱しました。米田副会長による閉会挨拶が行われ、最後に記念写真撮影を経て解散となりました。

○関西一泉同窓会総会



関西一泉同窓会の第四十二回総会懇親会が、令和七年六月十四日、大阪市のホテルモントレ大阪にて盛大に開催されました。当日は梅雨の合間の晴れ間にも恵まれ、約八十名の同窓生が会場に集い、久しぶりの再会を喜び合いながら、和やかな雰囲気の中で開会を迎えました。

司会は、中村嘉克氏と中村明彦氏の両名が務め、軽快な進行で会を温かく導きました。冒頭では、若松正志副会長が挨拶に立ち、同窓会の歩みや関西で活躍する卒業生への期待を語り、会場は静かに耳を傾けていました。続いて、中村太郎一泉同窓会本部会長、岡橋勇持校長らが祝辞を述べ、母校の近況や後輩たちの活躍が紹介されると、参加者からは懐かしさと誇らしさが入り混じった表情が見られました。乾杯の発声は、最年長である米田晃氏が務め、力強くも味わい深い言葉とともに杯が掲げられました。その瞬間、会場には一気に笑顔が広がり、テーブルごとに旧交を温める会話が弾みました。また、関西の大学に進学した現役学生の若手会員が壇上で自己紹介を行い、先輩たちは温かい拍手で迎えました。若い世代の参加により、会全体に新鮮な空気が流れ、世代を超えたつながりの大切さが改めて感じられる時間となりました。恒例の抽選会では、石川の特産品をはじめとした豪華景品が並び、番号が読み上げられるたびに歓声や笑い声が響きました。終盤には、参加者全員で一中一泉の校歌を合唱し、学生時代の記憶がよみがえるような一体感に包まれながら閉会となりました。

○関西ふるさと山中会総会

令和七年六月二十九日、大阪市のホテルグランヴィア大阪にて関西ふるさと山中会の総会と懇親会が開催されました。総会は須谷会長挨拶に始まり、ご来賓の紹介と挨拶が行われました。来賓には小出仙恵康加賀市産業振興部部長、東孝司連合会長らが出席しました。

総会後の懇親会では、講師辻本昌枝氏による「勅使接待役刀傷事件・前田利昌の場合」の講話が披露され、参加者は興味深く耳を傾けました。懇親会には会員ら二十一名が出席し、和やかな雰囲気の中で交流が深められました。また、恒例のビング大会も行われ、景品には野球観戦ペアチケット、加賀のしそジュースなどご当地景品が用意されました。さらに特別賞として手造りバッグが須谷会長より提供され、参加者に大変好評でした。参加者は笑顔で交流を楽しみ、次回の再会を約束しながら閉会となりました。



○神戸石川県人会総会

令和七年七月四日、神戸市の神戸モントレにおいて、神戸石川県人会は節目となる第二十回総会と懇親会を盛大に開催しました。総会では、能川弘文会長が「神戸あるなる会（前名称）」から続く歩みを振り返りつつ、「石川の振興につながる活動の継続発展」への思いを語り、参加者は深くうなずきながら耳を傾けました。続いて東孝司連合会会長が来賓挨拶を行い、節目の年を迎えた会への期待を述べました。

懇親会では、谷内田栄次能登互助会会長の力強い発声で乾杯し、会場は一気に華やいだ雰囲気になりました。恒例となった伝統工芸品などの豪華景品が並ぶ抽選会は大いに盛り上がり、当選者の歓声と拍手が絶えませんでした。さらに、会員の提案で「石川県民の歌」を全員で合唱し、故郷への思いを共有する温かな時間となりました。最後は、越村一

雄副会長の中締めにより、節目にふさわしい充実した会が締めくくられました。



○宝達志水関西ふるさと会総会

令和七年七月十三日、大阪市の新大阪ワシントンホテルプラザにて第二回宝達志水関西ふるさと会総会・懇親会が開催されました。総会では副会長である永田和美氏の司会で進行しました。栗原富夫氏が会長挨拶し、ふるさとの絆を深める意義を強調しました。来賓には高下栄次宝達志水町長、林稔議長が出席し、町の現状や今後の交流への期待を語りました。懇親会は理事山本和之氏の司会で始まり、上野精順会計の乾杯で和やかにスタート。宝達志水町商工観光課

による町の紹介では、自然や文化、観光資源の魅力が語られ、今後の取り組みが報告されました。会の後半には抽選会が行われ、地元特産品や雑貨などの景品で会場は大いに盛り上がりました。続いて宝達志水町賛歌の斉唱と万歳三唱で三十六名の参加者は一体感に包まれ、閉会となりました。



○北大阪石川県人会総会

令和七年七月十九日、大阪市の新大阪ワシントンホテルプラザにおいて第十回北大阪石川県人会総会・懇親会が開催され、四十三名が参加しました。総会は、司会は幸田陽子氏の進行で黙とうの後、来賓紹介が行われ、続いて兵庫達夫会長が挨拶し、これまでの活動を振り返りながら、会員相互の絆をさらに深めることの重要性を語りました。議事に入り、新会長として三野邦彦氏が、現会長

の兵庫達夫氏が相談役となる新体制となる役員候補案が承認されました。懇親会では、谷内田栄次能登互助会会長による乾杯で始まり、来賓挨拶では辰野六雄京都石川県人会幹事長氏、木田潔東大阪石川県人会会長らが登壇し、各会の活動報告などについて語りました。アトラクションでは学生歌手田中楓さんによる歌唱が披露され、会場は大きな拍手に包まれました。辻口信良副会長による御礼挨拶と中締めの後、石川愛の合唱と三唱で会場は一体感に包まれました。閉会の辞をもって懇親会は終了し、参加者は来年の再会を約束しながら散会しました。



○金商董台同窓会関西支部 秋の親睦会



令和七年九月二十七日、金商董台（金沢商業高校）同窓会関西支部は、大阪市梅田の「こんすい本店」において「秋の親睦会」を開催され、二十一名が出席しました。副支部長の永田和美氏が進行を務め、高桑外昭支部長が開会の挨拶を行い、関西支部の活動状況や今後の展望について語りました。続いて、金商董台同窓会本部会長の吉田茂氏が挨拶し、母校との連携強化の重要性などを強調しました。母校便りとして、石川県立金沢商業高等学校の杉本勝弘副校長が登壇し、学校の近況や教育環境の

充実に向けた取り組みを報告しました。特に、地域との連携や生徒の進路支援に関する最新情報が紹介され、参加者は母校の発展を実感する機会となりました。

親睦会は女性幹事グループの進行で和やかに始まり、松寺晃相談役による乾杯の発声で会場は一層賑やかな雰囲気になりました。出席者紹介では、一人ひとりが近況や思い出を語り、世代を超えた絆を再確認する場面が見られました。閉会にあたり、会計の高田道啓氏が挨拶し、今回の親睦会が成功裏に終わったことへの感謝と、今後の活動への協力を呼びかけ、閉会となりました。

○小松工業高校関西支部 同窓会総会

令和七年九月二十八日、大阪市のホテルグランヴィア大阪にて小松工業高等学校同窓会関西支部の総会・懇親会が開催され、二十八名が参加しました。総会は、馬場健二支部長の挨拶に続いて、来賓には山崎秀雄小松工業同窓会会長、室田昌一校長が地元から参加し、母校や地域とのつながりを深める意義について語られました。

総会後の懇親会では、司会岡田進副支部長と黒田幸夫監事が務めました。乾杯の後、会食と懇談が始まりました。会場は和やかな雰囲気になりました。懇親会では来賓スピーチに続き、小橋壽也高知工業高校同窓会大阪支部「鯨工会」支部長が登壇し、地域間交流の重要性や同窓会活動の意義を語りました。さらに、母校紹介として下出純央教頭と中野稔教諭野球部監督が母校の近況や部活動の

様子を報告し、参加者は、近年活躍目覚ましい母校の発展を実感しました。会の終盤には、お楽しみ抽選会が行われ、地元特産品や記念品が景品として用意され、参加者大変好評でした。終盤には校歌斉唱が行われ、参加者全員が声を合わせて母校への思いを新たにして、中締めは西田和雄幹事が務め、閉会となりました。



○関西小松同窓会総会

令和七年十月四日、関西小松（小松高校）同窓会「第十四回総会・懇親会」が大阪市のホテル日航大阪に

て開催され、幅広い世代の同窓生ら約百五十名が集いました。歌手の林龍太郎、池上久乃氏のオープニング歌唱で華やかに始まった総会では、まず物故者への黙祷が行われ、中山雄二会長より長年の支えへの深い感謝が語られました。新役員体制として会長が井尻潔氏へと交代することが発表され、新体制に寄せられる期待が会場に広がりました。

懇親会では来賓として、馬場智子小松高等学校校長、和田学小松同窓会会長、角英夫関東小松同窓会会長、佐々木紀衆議院議員、井出敏朗能美市長が紹介され、それぞれから母校と関西同窓会に寄せた温かい祝辞が述べられました。歓談では各テーブルで会話が弾み、久々の再会を喜ぶ声や、世代を超えた交流を楽しむ姿が見られました。大抽選会では歓声が上がり、続く校歌斉唱では全員が声を合わせ、母校への誇りと絆を確かめ合うひとときとなりました。

閉会の辞をもって会は締めくくられました。会場には終始あたたかな雰囲気満ち、参加者一人ひとりが心に残る時間を共有しました。



○羽咋工業高校関西支部 総会

令和七年十月四日、大阪市の新大阪ワシントンホテルプラザにて「第十四回羽咋工業高校同窓会関西支部総会・懇親会」が開催されました。会場には関西在住の同窓生を中心に、多くの参加者が集まり、母校への思いを語り合う温かなひとときとなりました。

総会は、池田修二氏司会による開会の挨拶に続いて、物故者への黙祷が捧げられました。総会終了後には、集合写真の撮影が行われ、三十六名の参加者の笑顔が並びました。懇親会は、河崎祐彦羽咋工業高校同窓会本部会長、田口喜一郎関東総支部長、三井孝秀気多大社宮司の来賓挨拶があり、乾杯には氣多大社から届けられた特別な乾杯酒が用意され、会場は一気に華やきました。余興では喜怒哀楽氏の落語や飽捷（ほうしょう）氏による音楽が披露され、笑いと拍手が絶えない楽しい時間となりました。初参加者として岡島秀勝氏が紹介され、同窓生の輪がさらに広がりました。また、加能人社発行の冊子「われら同期の桜」が配布され、同窓生の活躍が紹介されるなど、情報共有の場となりました。さらに、お土産の贈呈など、心温まる交流が続きました。最後に校歌斉唱と万歳三唱で一体感が生まれ、閉会の辞をもって懇親会は幕を閉じました。希望者は二次会のカラオケへと移動し、さらに親睦を深める時間を楽しみました。

○羽咋高校同窓会関西支部総会

令和七年十月十八日に大阪市の大阪キャッスルホテルにて「第六十六回羽咋高校同窓会関西支部総会及び懇親会」が開催され、三十九名が参加しました。

総会は、司会による開会の言葉に続いて、物故者の報告と黙祷が捧げられました。栗原富夫支部長からは、これまでの活動を支えてきた皆様への感謝と、今後も同窓生の絆を深めていきたいという思いが語られました。来賓紹介と挨拶が行われ、轟千栄子羽咋高校同窓会本部会長、中川久仁彦羽咋高校校長、赤池典充関東同窓会会長から、母校の現状や今後の展望について報告がありました。総会終了後には、羽咋高校の現在の様子が紹介され、母校の近況を知る貴重な時間となりました。

懇親会は、栗原支部長による乾杯の音頭で会場が一気に華やきました。会食と歓談の時間では、同窓生同士が旧交を温め、ふるさとの話題や近況報告で盛り上がりました。来賓からも挨拶があり、辻田豊秋羽咋工業高校同窓会関西支部事務局長、三谷史生七尾高校関西同窓会会長、多くの方々が出席して地域とのつながりを感じる場となりました。会員の自己紹介では、参加者一人ひとりが、母校への思いや近況を語り、会場は笑顔に包まれました。最後に校歌斉唱と万歳三唱で一体感が生まれ、閉会の辞をもって懇親会は幕を閉じました。



○金沢二中・錦丘関西支部 同窓会総会

令和七年十月十八日、金沢二中・錦丘高校関西支部同窓会の総会・懇親会が開催されました。会場には関西在住の同窓生を中心に、三十一名が参加し、母校への思いを語り合う温かな時間となりました。司会は海谷啓之氏が務め、終始和やかな雰囲気で行われました。

開会にあたり、来賓の紹介と挨拶が行われ、森博之校長からは母校の現状や今後の展望について報告がありました。木綿隆弘同窓会会長からは、これまでの活動を支えてきた皆様への感謝と、同窓生の絆をさらに深めていきたいという思いが語られました。関西支部総会では、岸本康義支部長の開会挨拶では、参加者は



熱心に耳を傾け、同窓会活動への関心の高さがうかがえました。懇親会は二部構成で行われ、第一部は若林寛治氏による乾杯の挨拶で幕を開けました。歓談の時間では、石野和明関東支部長代理から挨拶があり、さらに岸本関西支部長による石川県人祭についての補足説明もありました。ふるさとの話題や近況報告で会場は笑顔に包まれ、世代を超えた交流が生まれました。第二部では、出席者による自己紹介が行われ、初参加の方や金沢・名古屋からの参加者も三分スピーチを披露しました。各々が母校への思いや近況を語り、会場は温かな雰囲気になりました。最後に校歌斉唱と万歳三唱で一体感が生まれ、閉会しました。

○門前高校同窓会関西支部総会

令和七年十月二十五日大阪市の中華酒家旺宴で、「門前高校同窓会関西支部第三十回同窓生の集い」が開催されました。節目となる三十回目の集いには、関西を中心に来賓を含めて二十一名の同窓生らが集まり、懐かしい再会と新たな交流の場となりました。

開会にあたり、まず黙祷が捧げられ、続いて松本男関西支部長による挨拶が行われました。支部長からは、これまでの活動を支えてきた皆様への感謝と、今後も同窓生の絆を深めていきたいという思いが語られました。

乾杯の後は、西恵本部同窓会会長や支部代表の方々から挨拶があり、参加者一人ひとりが自己紹介やスピーチを行い、近況を報告しました。話題は能登や門前町の復興状況、石川県内の今年のニュース、門前高校野球部の活躍や大相撲の話題など多岐にわたりました。さらに、門前高校の現状報告がプロジェクターを使って紹介され、母校の近況に耳を傾ける参加者の姿が印象的でした。

会場ではゲームも行われ、能登から届けられた景品が用意されるなど、楽しいひとときが過ぎました。応援歌や校歌の三唱では、参加者一同で歌うことで一体感が生まれ、会場は熱気に包まれました。最後に記念写真を撮影し、閉会の挨拶で本会は幕を閉じました。その後、希望者は二次会のカラオケ会場へ移動し、さらに交流を深める時間を楽しみました。



○白山市関西ふるさと会懇親会

令和七年十一月八日、関西松任会大阪白山会、関西鶴来会の三会合同の懇親会である白山市関西ふるさと会懇親会が、大阪市のホテル大阪ガイデンパレスで開催され、来賓を含めて二十五名が参加し、ふるさとの絆を再確認する温かなひとときとなりました。会場は笑顔と活気にあふれ、久しぶりの再会を喜ぶ声があちこちで聞かれました。

司会進行は関西松任会副会長の安

実吉文氏が務め、関西鶴来会会長の加藤昭治氏による開会の挨拶で幕を開けました。続いて、清水茂白山市教育委員会教育長、木谷和栄白山市議会副議長、東孝司連合会会長より、心温まる祝辞があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。さらに、得田計子観光文化スポーツ部都市・多文化共生課長からは、白山市の現状や今後の展望、地域の魅力発信の取り組み、地域の交流促進に関する話題もあり、ふるさととのつながりを感じる時間となりました。

祝宴では、小寺悟鶴来商工会総務委員長による乾杯の音頭で会場が一気に華やきました。歓談の時間には、ふるさとの思い出や近況報告、地域の話題などで会場は笑顔に包まれ、世代を超えた交流が生まれました。



参加者同士が旧交を温める姿や、新たなつながりを築く様子が印象的でした。懇親会は大成功のうちに幕を閉じました。最後まで和やかな雰囲気が続き、参加者からは「次回もぜひ参加したい」といった声が寄せられ、ふるさと思う心が一層深まる素晴らしい会となりました。

○関西三桜会同窓会

令和七年十一月八日、大阪市のハートンホテル西梅田にて関西三桜（金沢桜丘高校）同窓会の懇親会が開催され、三十三名が出席しました。今回の懇親会は、三桜同窓会設立百周年を記念する節目の年にあたり、全国の同窓会関係者や来賓が集まり、盛大に行われました。

開会の辞に続き、松村玲郎三桜同窓会会長が挨拶し、百年の歴史を振り返りながら、同窓生の絆と母校への思いを語りました。続いて来賓紹介が行われ、石尾和彦金沢桜丘高等学校校長、小坂達也東京三桜同窓会会長、北森直樹東海三桜同窓会会長など、各地域の代表者が出席しました。来賓代表祝辞では、母校の現況や地域間交流の重要性が語られ、参加者は熱心に耳を傾けました。

乾杯の後、歓談の時間が設けられ、久しぶりに再会した同窓生たちが近況や思い出を語り合い、和やかな雰囲気になりました。会場では、三桜同窓会設立百周年記念ムービーが上映され、母校の歴史や卒業生の活躍が映し出されると、参加者から感嘆の声が上がりました。

後半には「お楽しみ抽選会」が行われ、石川県の特産品や記念品が景品として用意され、会場は笑顔と歓声に包まれました。一人一言スピー

この時間では、各参加者が母校への思いや同窓会活動への期待を語り、会場全体が温かな空気に包まれました。終盤には校歌斉唱が行われ、参加者全員が声を合わせて母校への思いを新たにしました。閉会の辞で懇親会は締めくくられ、無事散会となりました。

○能登復興応援の集いーN関西

令和七年十一月九日、大阪市のシティプラザ大阪にて「能登復興応援の集いーN関西」が開催されました。本会は、能登半島地震で被災した地域を支援し、復興への思いを共有することを目的に、関西珠洲会と関西能登町会が合同で企画し、約八十八名が参加しました。

第一部は北沢達成関西珠洲会事務局長の司会で進行し、宮崎和夫関西珠洲会会長が開会挨拶を行いました。続いて来賓祝辞では、泉谷満寿裕珠洲市長、吉田義法能登町長が登壇し、復興に向けた現状と課題など近況を報告しました。

議事の後に、続いて「外から見た能登の魅力と課題」と題し、珠洲ホースパークCOO角居勝彦氏が講演し、観光資源の活用や地域ブランドの強化について提言しました。また、坂本成昭関西珠洲会顧問からは「地震で被災した漁師を支援する取り組み」が紹介され、現場の声を反映した支援活動の重要性が強調されました。

第二部の懇親会は、山岸寛行関西珠洲会幹事の司会、東孝司連合会会長の乾杯でスタートしました。珠洲市商工会議所提供の日本酒や焼酎の振る舞いがあり、会場では新入会員の紹介や避難者へのインタビューが行われ、被災地の現状や復興への思いが共有されました。さらに、「故郷」の全員合唱で会場は一体感に包まれ、閉会挨拶では矢部秀幸関西能登町会会長が今後の活動への意欲を語り、散会となりました。参加者はそれぞれの立場から支援の輪を広げる決意を新たにしました。



○関西輪島会総会

令和七年十一月十六日、大阪市の新大阪ワシントンホテルプラザにて第四十三回関西輪島会総会・懇親会が開催され、四十七名が出席しました。総会の司会は演津三和子氏と水野和子氏が務めました。開会の辞に続き、物故者を偲んで黙祷が捧げられ、兵庫達夫会長が挨拶を行いました。来賓紹介の後、坂口茂輪島市長の挨拶では、震災で発生したげきりが撤去されたことなど現況報告がありました。また、大宮正輪島市議会議長、久岡政治輪島商工会議所会頭らから祝辞が述べられ、ふるさとへの思いや復興への期待が語られました。

懇親会では、東京輪島会会長、東海輪島会副会長、京都石川県人会幹事長、東大阪石川県会会長、北大阪石川県人会会長、北國新聞大阪支社長など多くの来賓が挨拶を行い、地域の交流と連携の重要性が強調されました。会員による近況報告や懇親タイムでは、久しぶりの再会を喜び合い、ふるさとの話題で盛り上がりしました。

お楽しみ抽選会では、地元特産品や記念品が景品として用意され、会場は笑顔と歓声に包まれました。さらに、故郷の歌の合唱や故郷への募金贈呈が行われ、参加者全員がふるさとへの思いを新たにしました。閉会にあたり、兵庫達夫会長が御礼の挨拶を述べ、堀井正行氏の閉会の辞では締めくくられました。参加者は笑顔で交流を楽しみ、次回の再会を約束しながら散会しました。



○夏の甲子園応援

関西だより

第七十七回全国高校野球選手権大会には、石川県代表として小松大谷高校が二年連続四度目の出場を果たしました。試合前日の令和七年八月四日には、宿泊先のホテルを東孝司連合会会長はじめ六名が訪問し、「必



8/4宿泊先にて激励



8/5甲子園での一回戦の応援前に

勝の気持ちで頑張つてほしい」と連合会を代表して激励の言葉を贈りました。

今年の開幕戦は、甲子園でも珍しい午後五時半過ぎの試合開始となりました。相手は長崎県代表の創成館高校です。地元・石川から駆け付けた応援団の声援を受け、小松大谷は初回から持ち味を發揮します。一死三塁の好機をつくると、四番でエースの江守選手がセンター前へタイムリーヒットを放ち、今大会の「開幕初得点」を記録。スタンドは大きな歓声に包まれました。

しかしその後は、相手のエース森下投手の力投に苦しめられます。同点とされ、一対三と逆転を許しました。中盤以降は打線がつながらず、三回から七回二死まで無安打に抑え込まれる厳しい展開となりました。それでも守備では随所に好守が光り、最後まで粘り強く戦い抜きましたが、一対三で惜しくも敗れ、二年連続の初戦突破はなりませんでした。

結果は悔しいものとなりましたが、選手たちは石川県代表として堂々と戦い抜き、スタンドの声援にこたえ、熱戦を繰り広げました。連合会では昨年以上の厳しい暑さの中、体力を奪われながらも二十四名の大応援団を結成し、アルプススタンドから球児たちへ力強い声援を送り続けました。

○全国高校ラグビー応援

今冬、花園ラグビー場で開催された第百五回全国高校ラグビーフットボール大会には、石川県から二十一日大会連続二十一度目の出場となる日

本航空高等学校校石川が挑みました。初戦に先駆けて、令和七年十二月二十六日には奈良市内の宿泊先を県人会連合会と関西輪島会の有志が訪問し、選手たちを激励しました。

そして迎えた十二月二十八日の一回戦。対戦相手は新潟県代表の北越高校でした。試合は序盤から航空石川が圧倒する展開となり、キックオフ直後から攻撃の手を緩めず、前半だけで二十八対ゼロと大きくリードします。後半に入ると北越高校も意地を見せ、三連続トライで十七点を返しましたが、航空石川は冷静に試合をコントロールし、さらに追加点を重ねて最終スコアは四十二対十七。北越の反撃を許しながらも、終始主導権を握った試合でした。スタンドでは県人会連合会の応援団が声を張り上げ、熱気に包まれた花園の空気が一層盛り上がりました。

この勝利で航空石川は二回戦進出を決め、三十日には兵庫県の強豪・関西学院高等部と対戦します。尾芝主将が先制トライを決める好スタートを切りましたが、相手にトライやペナルティゴールを許し、前半は五対十三で折り返し。後半も見せ場を作ったものの、最終的には十七対二十七で惜しくも敗退しました。

震災の影響で、未だ東京の避難先で練習を続けるというハンデを抱えながら挑んだ大会。それでも、元日の三回戦を目指して全力で戦った選手たちの姿は、応援していた私たちの胸を熱くしました。彼らのひたむきな努力と闘志は、石川県の誇りであり、次回大会への希望を確かに感じさせてくれました。



12/26宿泊先にて激励



12/28試合会場にて一回戦の応援前に

○第八回関西石川県人会連合会ゴルフコンペ

令和七年九月二十六日（土）、兵庫県宝塚市の「宝塚ゴルフ倶楽部」において、第八回関西石川県人会連合会ゴルフコンペが開催されました。当日は晴天に恵まれ、絶好のゴルフ日和の中、十九名の会員が参加し、



和やかな雰囲気プレーを楽しみました。今回の成績は、優勝が井尻潔氏、準優勝が山本廣治氏、第三位が田島隆司氏という結果となりました。ラウンド終了後には、実行委員長の上田敦義氏（連合会常任理事）より優勝カップが贈呈され、参加者全員で健闘を称え合いました。本コンペは、会員相互の親睦を深めることを目的としており、今回もその目的を十分に果たすことができました。参加者からは「楽しかった」「また参加したい」との声が多く寄せられ、非常に有意義な一日となりました。なお、次回のゴルフコンペは令和八年九月二十五日（金）、大阪府池田市の伏尾ゴルフ倶楽部にて開催予定です。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

市町だより

○金沢市

下本多町の「金沢ふるさと偉人館」は、世界に誇る金沢ゆかりの偉人の資料や著作を展示し、その生涯や功績を広く紹介する人物館です。近代バイオテクノロジーの父高峰譲吉博士や近代建築の巨匠谷口吉郎氏、台湾嘉南大圳の父八田與一技師ほか多彩な郷土の偉人全三十八人を顕彰しています。

このたび、再開館に合わせて観覧を無料化し、十四人の偉人の「音声ガイド」を制作したほか、これを記念して、三月一日（日）までの間、特別展「能登の殿様、世界に挑む、畠山一清と国産ポンプ」を開催中。かつて能登を統治した能登畠山氏の歴史を辿りながら、その末裔で荏原製作所創業者の畠山一清氏が遺した功績と未来へつながるテクノロジーを紹介いたします。ぜひ足をお運びください。



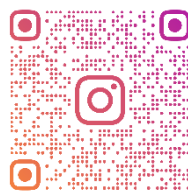
アクセスなど施設
詳細はこちらから



○七尾市

能登半島地震の影響で休業していた「なかじま猿田彦温泉いやし湯」が、昨年十一月二十九日に営業を再開しました。このことは七尾市復興の象徴のひとつであり、被災した皆様が心身ともに癒しを得て、再び活力を取り戻すための大切な交流拠点になると期待しています。

また、七尾市では昨年七月に七尾市公式Instagramアカウントを開設しました。すでに開設している公式LINEとFacebook、X、YouTubeと合わせて七尾市の情報をお届けしています。毎月発行している「広報ななお」を見ることもできます。ぜひ登録をお願いします。



NANAO_CITY

七尾市公式
Instagram



七尾市
公式LINE

○小松市

令和七年十月十日に中田一於さんが、陶芸技法の「釉下彩」で重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されました。

釉下彩とは、絵付け等の装飾の上に透過性の高い釉薬を施釉し焼成する技法で、高度な芸術的表現を可能にする陶芸技法として高く評価されています。

三月二十日から人間国宝認定を記念して特別展を開催します。中田さんがこれまで制作してきた作品を通じて、その優れた技法や釉裏銀彩の魅力を紹介いたします。

「人間国宝認定記念 特別展 銀と彩ー人間国宝《釉下彩》・中田一於の世界ー」

【会期】三月二十日（金・祝）～五月十七日（日）

【会場】小松市立本陣記念美術館

皆様のお越しをお待ちしております。



詳細はこちらから

○輪島市

令和七年十月四日（土）に輪島市で全国各地の温泉地をモチーフとした二次元キャラクター「温泉むすめ」の新キャラクター、「輪島かさね」のお披露目イベントが開催されました。温泉むすめは、アニメや漫

画、キャラクターや声優などの様々なコンテンツを通じて、日本全国の温泉地や観光地の魅力を国内外に発信するために作られた地域活性化を主目的としたプロジェクトです。

「輪島かさね」は全国で百三十四番目、石川県内では山中、山代、和倉に続いて四番目の誕生となりました。名前の由来は、重蔵神社、想いを重ねる、輪島塗の工程をかさねるところから命名されました。「輪島かさね」を通じて、より多くの方に輪島の魅力、そして「輪島かさね」の魅力を知っていただくことを期待しています。

○珠洲市

珠洲市では、「冬の珠洲」を彩る二大イベント、『食祭 珠洲まるかじり』と『珠洲あんこう祭り』を、同時開催することとなりました。これまで、本市の復旧・復興にご支援いただいた皆様に感謝を込めて、3年ぶりに開催されます。食のイベントでは、珠洲の旬の味覚や郷土料理として、寒い冬にぴったりのあんこう鍋をお楽しみいただけるほか、迫力満点のあんこうの吊るし切りも実演されます。珠洲市の食の一大イベントは、令和八年二月二十二日（日）に開催いたしますので、皆様是非お越しください。

お問合せ先… 珠洲市観光交流課

☎ 0768（82）7776

○加賀市

令和七年八月三十日、「萬松園あいうえおの杜」がオープンしました。「あいうえお五十音」発祥の地であり、開湯千三百年の節目に誕生した新たな観光スポットです。地域の想いを込め約二年かけて整備され、温泉街の賑わいの中で豊かな自然の静けさを味わえるのが魅力です。園内には木材をふんだんに使用した「あいうえお学舎」やカフェ、子どもが遊べるスペースが備わり、家族連れでも安心して利用できます。全長三百六十メートルの空中回廊からは山並みや温泉街を一望でき、毎日九時～十七時の各時間最初の十五分間に霧が立ちこめ、幻想的な風景を楽しむことができます。ドッグランやコテージなど多彩な施設もあり、幅広くご利用いただけます。



全長360mの空中遊歩道



あいうえお学舎

○羽咋市

令和七年は、都市計画道路川原町線、国道159号羽咋道路、県道若部千里浜インター線の開通といった道路整備が着実に進み、地域の利便性や安全性の向上につながりました。また、LAKUNAはくいの来館者が十二月に五十万人を超え、多くの方々にご利用いただき大変嬉しく思います。世代を問わず多くの人が集い、新たな交流が生まれるサードプレイスとして、笑顔溢れる素晴らしい施設となっています。皆様も羽咋市にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。さらに、当市において本州初めてとなるトキの放鳥が六月ごろに予定されています。今後もトキ放鳥に関するイベントを始めとした様々な行事や役立つ情報を、市公式LINEにて配信していきますので、ぜひご登録ください。



羽咋市
公式LINE

○かほく市

令和七年十月十日（金）に、かほく市大崎区の榊原神社において、再建を祝う竣工式が執り行われました。大崎区は、能登半島地震による液状化現象により甚大な被害が集中した地域であり、榊原神社も建物が大きく損壊したため、令和六年九月に公費解体を行いました。このたび再建の日を迎えることができます。

した。竣工式では、奴行列や獅子舞が披露され、また、翌十一日（土）・十二日（日）には二年ぶりととなる秋季例祭が行われ、地域に笑顔と活気をもたらしました。市としても、復旧・復興を最優先、最重要課題として取り組んでおり、一歩一歩着実に前進しております。

かほく市の復興とさらなる発展のため、引き続き皆様の温かい支援を賜りますようお願い申し上げます。



榊原神社

○能美市

昨年は能美市が誕生してから二十周年という記念すべき年でした。令和六年二月に挙行了した能美市制施行二十周年記念式典をかわきりに様々な記念事業を執り行い、能美市民の皆さまのふるさと愛の醸成を図るとともに、市外へも能美市の魅力を広く発信することができました。また能美電開通百年・廃線四十五年という節目の年でもありました。今年の春には、かつての起終点となる能美根上駅に能美電車両を能美根上駅東口広場に移設し、旧駅務室にカフェを設置するほか、飲食物や土産品を購入できる無人店舗をオープンする予定です。能美市にお越しの際はぜひお立ち寄りください。市の最新情報は、市公式LINEで配信中ですので、ご登録をお願いします。

○野々市市

市花木ツバキを介して野々市に春を告げる『花と緑ののいち椿まつり2026』を令和八年三月二十一日（土）・二十二日（日）に野々市市文化会館フォルテを主会場として開催します。

ツバキの切り花や華道協会による生け花作品、ツバキをモチーフとした芸術作品などが会場を彩ります。文化協会各団体のステージ発表や地元逸品が買える特産物市も見逃せません。茶席や飲食コーナー「つばき食堂」で、お腹も心も満たされること間違いなしです。ふるさとの魅力いっぱい『花と緑ののいち椿まつり2026』へ、ぜひお越しください。



「能美電車両移設後のイメージ」



能美市公式
LINE



○川北町

「サンフィールド川北」に遊具が追加

現在、子ども達が安全にのびのび遊べる環境づくりの一環として、令和六年三月に完成した多目的運動公園「サンフィールド川北」へ新しい大型複合遊具などを設置するための工事を行っており、令和八年三月末に完成を予定しています。既存のウォーキングコースなどもあり、全年齢が楽しむことができる公園となっており、川北町にお越しの際は、ご家族などでぜひお立ち寄りください。



川北町公式LINE

また、令和六年十二月より川北町でもLINE公式アカウントを開設しております。町でのイベントや防災情報などの発信、「広報かわきた」の閲覧もできますので、ぜひ登録をお願いいたします。

○津幡町

津幡町出身力士の大的里関は、令和七年三月・五月場所で二場所連続の幕内最高優勝を果たし、初土俵から所要十三場所という史上最速で横綱に昇進しました。石川県出身力士の横綱昇進は、昭和四十八年の輪島関以来三人目、津幡町出身としては初の快挙です。六月には町民栄誉賞・県民栄誉賞を授与しました。

また、津幡町出身力士の欧勝海関も十一月場所で新入幕を果たし、十二月二十一日には津幡町広報特使に就任しました。

道の駅「俱利伽羅源平の郷竹橋口」は、令和七年三月にリニューアルしました。館内ではAIコンシェルジュが観光情報などを案内しています。あわせて、町の歴史や観光地を紹介する「津幡かるた」を大型パネルで展示しており、絵札をタッチすると、詳しい解説をご覧いただけます。



大型パネルで「津幡かるた」を展示

○内灘町

「内灘町総合公園」には、船をモチーフにした大型遊具「海族船サンセット号」や屋外バスケットボールコート・野球場・屋内温水プール等、子どもも大人も一日中楽しめる施設が揃っています。

また、公園内にある内灘町サイクリングターミナルでは、宿泊設備や屋外バーベキュー広場等が備えられております。客室は和室・洋室タイプがあり、目的に応じてご利用できます。さらに、屋外バーベキュー広場では、食べ飲み放題コースもあり、手ぶらでも食事を楽しむことができます。

ぜひ内灘町へお越しください。

○志賀町

令和七年十二月からYouTubeチャンネル「いなけんティービー」を開設しました。稲岡健太郎町長が町政運営を分かりやすく説明します。月2回更新しますので、ぜひご覧ください。

また志賀町公式LINEでは、志賀町の情報をお届けします。毎月発行の「広報しか」などもお知らせしますので、ぜひ登録をお願いします。



○穴水町

令和七年十月「あなみず餃子」が新たな、まいもんまつのメニューとしてお披露目されました。里山の恵みである「切干大根」と、里海の恵みである「いしる」が合さり、ポリっとした新感覚の食感に仕上がりました！

開発間もない「あなみず餃子」は、町内の加盟店舗でのみ提供しております。今後は商品化を目指します。詳しくは、穴水町観光交流課までお問い合わせください。

☎ 0768(52)3790



最後までお読みいただき、ありがとうございます。次回は、令和八年六月に発行予定です。

